

感情的必要のトップテン Part2

子供たちの感情的必要に応える、「感情的必要のトップテン」を共に考えていきます。今回は「受け入れ」る事の大切さを考えました。

●認められる

子供のふるまいがどうあれ、私たちは常に子供を受け入れなければなりません。「罪を憎んで人を受け入れる」べきです。しかし、「認める」ということは、子供が正しいこと、良い事をした時に、それを肯定して、ほめてあげることです。私たちは親として、子供が間違っただけをした時に正すことのほうが一般的に多いのではないのでしょうか？しかしいつも正すだけではなく、良い事をした時にほめてあげ、認めることが大切です。そうしないと、子供は正しい事、良い事を行うことに飽きてしまいます。

子供をほめる時に覚えておくべきことは、達成したことをほめるのと同じくらい、人格をほめることです。例えば、テストで良い点を取ったときは、「いい点だねえ」と言うだけでなく、「この点を取れたのは、あなたが見たいテレビを見ないで、忍耐して勉強したからだよ」などと言ってあげることです。子供を認めることは、言葉だけでなく、プレゼントを買ってあげるとか、おこづかいを増やすなどして表現することもできます。

アテネオリンピックのハンマー投げで活躍した室伏広治選手のお父さん、重信さんのことばが印象に残ります。ハンマー投げ競技で室伏選手最後の6投目の結果は82メートル91でした。首位まであと28センチ。室伏選手のメダルが銀と決まりました。父重信さんは、息子が念願の金メダルを取れず残念な気持ちを持ちを隠さずとも、「最後は非常によかった。スピード感覚を最後につかんだ。よくやったんじゃないか」と息子をほめてあげました。「立派ですよ、五輪でメダルを取ったんだから」と。室伏広治選手があのように活躍できるのは、彼を見守り、ほめてくれる父親がいるからではないのでしょうか。